



村小だより

平成30年6月13日発行

お力添えに 感謝して

校長 鈴木 正美

大雪で少々傷んだツツジが、ピンクの花で玄関前に彩りを添えています。その脇で茶木も柔らかく艶々した新芽を空に向かって伸ばしています。そして、玄関両脇では、次の出番を紫陽花が待っています。例年の光景ですが、1学期も後半に入っています。

さて、この間、毎朝、ボランティアで子どもたちの登校を見守り、指導や声かけをしてくださるながらパトロールの皆様をはじめ、多くの地域の皆様のおかげで、子どもたちは大きな事故にあうこともなく、安全に登校することができています。また、本の読み聞かせや図書整理等のボランティアの皆様からも、読書指導の一端を担っていただき、子どもたちは、落ち着いた気持ちで一日をスタートさせてもらっています。誠にありがたく、心から感謝申し上げます。

また、予定していたマラソン大会(全校)、佐渡への修学旅行(6年)、ファミリーウォークラリー(1~4年)等の学校行事をはじめ、お城山探検(1年)、野菜の苗植え(2年)、お茶摘み体験(3年)、警察署、消防署、村上木彫堆朱店の見学(4年)、田植え(5年)等々、校外での見学や体験活動も予定通りに実施することができ、十分に目的を達成することができたと喜んでるところです。これも、安全で円滑な運営のためにボランティアとして参加くださった保護者や地域の皆様、貴重な体験の場を提供してくださった関係の皆様のおかげと、心から感謝申し上げます。

地域とのつながりを大切にした「地域で学ぶ・地域から学ぶ・地域を学ぶ」活動はまだまだ計画されていますが、今後とも「伝統を生かし、未来を創る村小っ子」の成長のために、お力添えをいただけますよう、よろしく願いいたします。

<全校朝会:マラソン大会表彰後の校長の話から>

入賞した皆さん。おめでとうございます。でも、がんばったのは、入賞した人たちだけではありません。参加した全員が、持てる力をふりしぼって、「本気」になってがんばったと思っています。なぜなら、どの学年のレースでも素晴らしい村小っ子の姿が見られたからです。

競う相手、ライバルに「負けないぞ」と歯を食いしばって走る姿、遅くても最後まで諦めないでゴールを目指して走る姿、そして、その姿を見て「がんばれ、がんばれ」と応援する姿でした。村小っ子の「強くて、たくましい」姿と「優しく、思いやりのある」姿でした。とても素晴らしい姿でした。

そんな皆さんの素晴らしい姿を見て、私は思いました。普段の学校生活でも、「勉強や運動、挨拶や清掃などで、がんばっている友達を見て、自分も負けないでがんばるぞと取り組む。」「友達や先生方、家族からの応援を受けて、ようしがんばってみようかと思って取り組む。」など、全校のみんなで心がければ、もっと素晴らしい村小になるんだろうなあと思いました。できる人から取り組んでみましょう。

お祭りも近付いてきました。乗ったり、奏でたり、曳いたり、見物したりと、かかわり方は様々だと思えますが、重要無形民俗文化財となった伝統行事を支える「村小っ子」の力や素晴らしさを大いに発揮してほしいと願っています。